

奄美地域の実エンドウ栽培における強風害後の種子不足に対応した播き直し方法

播き直し栽培の必要が生じた場合、新しく植え穴を開け1穴に1粒播種し2本仕立て栽培することで、商品収量を確保できる。

背景・目的

- ・奄美地域における実エンドウ栽培では、強風被害に伴い播き直しが必要
- ・この際、種子が十分に確保できないケースが想定
- ・保有する種子数に対応した生産技術の確立が必要

成果の内容

- ・播き直しの際は、新たに植え穴を開け播種する(欠株抑制, 表1)
- ・1穴への播種粒数を2粒から1粒に変更し, 2本仕立て栽培することで, 播種量当たりの商品収量が2倍程度となり, 収量確保に有効(図1)
- ・2粒1本仕立栽培の半分の種子があれば概ね収量は確保される(図1)

表1 播種位置の違いが欠株率に及ぼす影響 (%)

播種位置	令和3年作	令和4年作
元穴(被害株除去した穴)	12.8	6.2
新穴(元穴の間に新たに穴を開ける)	1.4	0.9

1) 令和3年作の播種日および調査日はそれぞれ, 令和3年11月10日, 令和4年1月13日

2) 令和4年作の播種日および調査日はそれぞれ, 令和4年11月10日, 令和5年2月1日

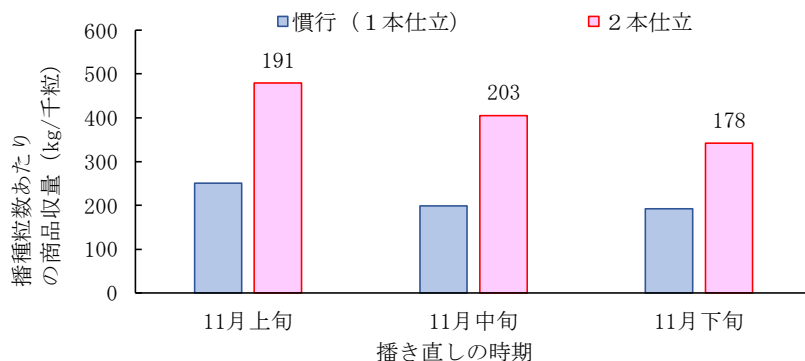


図1 仕立て法の違いによる播き直し時期別商品収量 (令和2~4年作平均)

期待される効果

- 強風害に備えた栽培管理法が確立されることによって, 生産者の所得確保される



経営安定化(強風被害への対応)



奄美地域の実エンドウ栽培

- 普及対象・範囲 奄美地域の
実エンドウ担当技術員

鹿児島県農業開発総合センター
徳之島支場園芸土壌研究室